

[参考事項]

成果情報名：ネギ秋冬どり作型における品種の特性

研究機関名 農業試験場 野菜・花き部、生産環境部
担当者 堀内和奈・齋藤隆明・他4名

[要約]

ネギ秋冬どり作型において、市販10品種を比較し、収量性については「夏扇パワー」を上回る品種はなかったものの、「項羽一本太」や「関羽一本太」が同程度であった。病害については、「夏扇パワー」はさび病の発生が少なく、「関羽一本太」「項羽一本太」「碧い海原」は黄色斑紋病斑の発生が少ない。

[キーワード]

ネギ・秋冬どり作型・品種特性・さび病・葉枯病

[普及対象範囲]

秋田県内

[ねらい]

本県のネギ秋冬どり作型では、出荷規格として2L、Lサイズが主流であり、主に「夏扇パワー」が作付けされている。一方、園芸メガ団地の整備等により作付け規模の拡大で、単一品種では収穫適期での収穫・調製作業が間に合わず、複数品種の作付けが検討されている。そこで、本県の秋冬どり作型において主要品種である「夏扇パワー」を基準に、近年育成された品種を含めた品種特性を明らかにし、品種開発および作付けの資とする。

[成果の内容及び特徴]

- 1 秋冬どり作型において、葉鞘中央部径は「項羽一本太」が「夏扇パワー」より太く、「碧い海原」が最も細い品種である。60cm調製重についても「項羽一本太」が「夏扇パワー」より重い傾向である。また、「源翠」は草丈および最大葉身長が「夏扇パワー」より長い（表1）。
- 2 供試したいずれの品種も「夏扇パワー」よりさび病の発病度が高く、特に「関羽一本太」と「夏山一本太」の発病度が高い（図1）。よって、「関羽一本太」と「夏山一本太」は「夏扇パワー」と比べて、さび病に特に弱い傾向がある。
- 3 葉枯病（斑点病斑）の発病程度に品種間で大きな差は認められない（図2）。
- 4 良品率（黄色斑紋病斑の程度が低い割合）は、「関羽一本太」「項羽一本太」「碧い海原」が、「夏扇パワー」より特に高い。一方「大河の轟き」と「夏山一本太」は「夏扇パワー」より良品率が低い（図3）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 本試験は、2022年秋田県農業試験場露地ほ場（非アロフェン質黒ボク土）で実施した。さび病および葉枯病の発病状況についても、同一ほ場で実施した。
- 2 品種特性は11月9日に収穫して調査し、発病状況はさび病については11月17日、葉枯病については11月4日に立毛で調査をした。

[具体的なデータ等]

表 1 秋冬どり作型における品種特性 (2022年11月9日)

品種名	育成	草丈 (cm)	最大 葉身長 ¹⁾ (cm)	最大 葉身折径 ²⁾ (mm)	葉鞘長 (cm)	葉鞘 中央部径 (mm)	全重 ³⁾ (g/本)	60cm 調製重 ⁴⁾ (g/本)
(対照)夏扇パワー	(株) サカタのタネ	90.2	53.9	30.2	36.9	22.4	284	192
夏扇4号	(株) サカタのタネ	86.8	51.1	26.7	35.3	21.8	253	168
関羽一本太	(株) トーホク	89.2	52.8	30.1	35.6	22.3	260	180
項羽一本太	(株) トーホク	90.8	55.1	31.3	34.9	23.8	277	195
名月一文字	タキイ種苗(株)	81.3	48.0	29.3	33.4	22.5	235	159
大河の轟き	トキタ種苗(株)	88.7	50.7	28.8	37.0	21.9	261	170
碧い海原	トキタ種苗(株)	90.5	50.9	26.5	39.1	20.2	233	158
深緑のいざない	トキタ種苗(株)	90.9	52.8	28.1	37.9	22.5	241	172
源翠	カネコ種苗(株)	93.8	55.4	28.7	37.7	22.2	261	174
夏山一本太	中原採種場(株)	87.8	51.3	30.9	36.2	22.4	261	171

1) 最も長い本葉の長さ 2) 本葉を平らにした時の幅

3) 収穫後に根切した時の重さ 4) 根切後、本葉数を3枚にして草丈が60cmになるよう調製した時の重さ

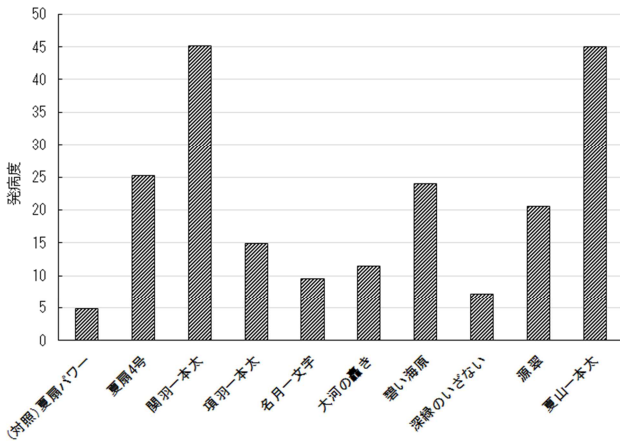


図 1 供試品種におけるさび病の発生状況

注) 調査日は2022年11月17日

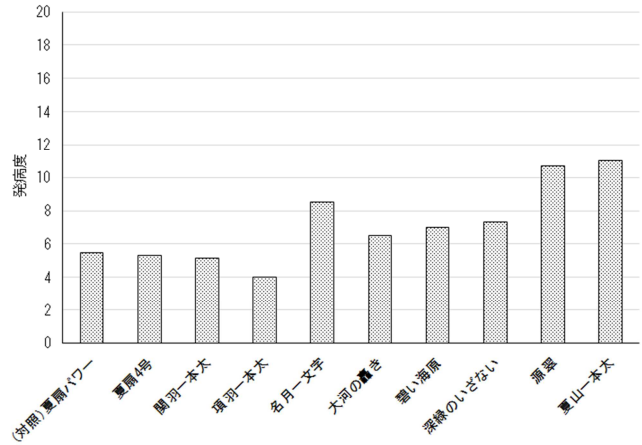


図 2 供試品種における斑点病斑の発生状況

注) 調査日は2022年11月4日

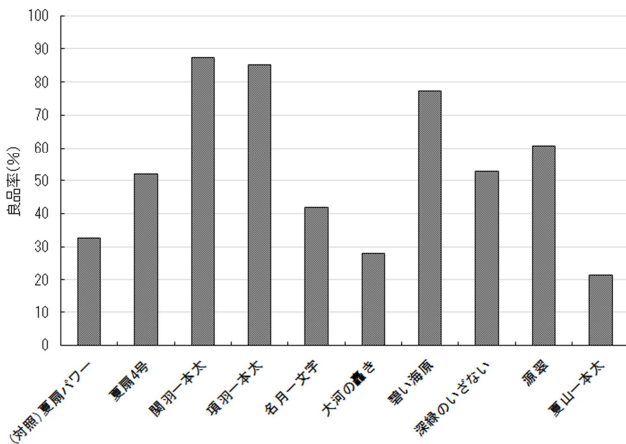


図 3 供試品種における良品率

注 1) 調査日は2022年11月4日

注 2) 良品率は黄色斑紋病斑の発生程度が低い発病指数 0~2 の割合である

【耕種概要】

播種：2022年4月25日、チェーンポット(GP303)

2粒/穴、げんきくんネギ培土

定植：2022年6月22日

施肥量(kg/10a)：N:P₂O₅:K₂O=25:9:9(基肥、パワフルネギ599)

収穫：2022年11月9日

【病害調査】

殺菌剤：アフエットフロアブル(9月12日)

※全品種甚発生を防止するために使用

調査株数：60株/品種×3反復

発病指数：(0:なし、1:小、2:中、3:大、4:甚)

発病度 = $\sum(\text{発病指数} \times \text{株数}) \times 100 / (\text{調査株数} \times 4)$

[その他]

研究課題名：野菜オリジナル品種の育成と親系統等の増殖

研究期間：令和4年度

予算区分：県単

掲載誌等：なし